

行動科学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
行動科学概論	社会調査の基礎	2	木村 邦博	3	前期 火曜日 5講時	
行動科学概論	社会調査の実際	2	木村 邦博	4	後期 火曜日 5講時	
行動科学概論	社会科学におけるモデル入門	2	毛塚 和宏	集中(3)	集中講義	
行動科学概論	ゲーム理論入門	2	毛塚 和宏	集中(4)	集中講義	
行動科学基礎演習	行動科学の基礎リテラシーと質的調査	2	佐崎 愛	3	前期 金曜日 4講時	
行動科学基礎演習	行動科学のための数理モデル入門	2	浜田 宏	4	後期 金曜日 4講時	
行動科学基礎実習	多変量解析	2	小川 和孝	4	後期 水曜日 4講時 後期 水曜日 5講時	
行動科学各論	社会階層と不平等の計量分析	2	小川 和孝	5	前期 火曜日 2講時	
行動科学演習	質問の科学	2	木村 邦博	5	前期 月曜日 4講時	
行動科学演習	「質問の科学」実験実習	2	木村 邦博	6	後期 月曜日 4講時	
行動科学演習	応用多変量解析	2	小川 和孝	5	前期 金曜日 2講時	
行動科学演習	非伝統的データの分析	2	小川 和孝	6	後期 金曜日 2講時	
行動科学演習	社会科学のための統計的因果推論	2	浜田 宏	5	前期 水曜日 2講時	
行動科学演習	ベイズアプローチによる社会科学の理論と実証	2	浜田 宏	6	後期 水曜日 2講時	
行動科学演習	計算社会科学のためのPythonプログラミング入門	2	LYU ZEYU	5	前期 水曜日 3講時	
行動科学演習	計算社会科学と自然言語処理	2	LYU ZEYU	6	後期 水曜日 3講時	
行動科学実習	社会調査実習	2	小川 和孝	5	前期 水曜日 4講時 前期 水曜日 5講時	

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB32501, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Social Surveys

3. 授業の目的と概要：現代社会を特徴づける人間活動の 1 つである社会調査について、その目的と進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course serves as an introductory course on social surveys. It helps students understand the basics of questionnaire design, sampling, interviewing, data analysis, and research ethics.

5. 学修の到達目標：社会調査に関する基本的な知識を修得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course helps students acquire basic knowledge of social surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史
3. 調査内容の決定(1)
4. 調査内容の決定(2)
5. 調査対象の決定(1)
6. 調査対象の決定(2)
7. 調査の実施と処理(1)
8. 調査の実施と処理(2)
9. 結果の集計と分析(1)
10. 結果の集計と分析(2)
11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)
12. 調査報告をまとめる
13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)
14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)
15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理

8. 成績評価方法：

レポート (Google Classroom で提出) による。

9. 教科書および参考書：

教科書：原純輔・浅川達人 『社会調査』(改訂版) 放送大学教育振興会、2009.

10. 授業時間外学習：教科書と補足資料 (Google Classroom で配付) で予習・復習をする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

- (1) 行動科学概論 (社会調査の実際) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 A に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB42501, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査の実際

2. Course Title (授業題目) : Social Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ蒐集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course serves as an advanced course on social surveys. It helps students understand the practical knowledge that should be useful in planning surveys, interviewing, and analyzing survey data.

5. 学修の到達目標：社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course helps students acquire practical knowledge of social surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 調査票の設計とワーディング 1 (説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法)
2. 調査票の設計とワーディング 2 (調査票の構成、ワーディングと回答の歪み)
3. 標本抽出と統計的推測 1 (標本抽出法)
4. 標本抽出と統計的推測 2 (統計的推測)
5. 標本抽出と統計的推測 3 (統計的検定)
6. 因果推論の方法 1 (因果関係と相関関係)
7. 因果推論の方法 2 (因果的規定力の推定)
8. 測定と尺度構成 1 (測定と尺度構成の考え方)
9. 測定と尺度構成 2 (多次元尺度の考え方)
10. 測定と尺度構成 3 (社会的地位の測定法)
11. 多変量解析の基礎 1 (重回帰分析の考え方)
12. 多変量解析の基礎 2 (質的変数と重回帰分析)
13. 多変量解析の基礎 3 (パス解析と因子分析)
14. データの整理と作成 1 (調査票の配布・回収からエディティング、コウディング、データ入力とクリーニングまで)
15. データの整理と作成 2 (非定形データの処理・分析法)

8. 成績評価方法：

レポート (Google Classroom で提出) による。

9. 教科書および参考書：

参考書：原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第 2 版]』 東京大学出版会、2004

10. 授業時間外学習：参考書と補足資料 (Google Classroom で配付) などで予習・復習をする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

- (1) 行動科学概論 (社会調査の基礎) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 B に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(3) 単位数：2

担当教員：毛塚 和宏

コード：LB98801, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学におけるモデル入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Model in Social Science
3. 授業の目的と概要：(数理) モデルは人や社会のふるまいや傾向を理解するのに大いに役立つ。本授業では以下のモデルを通して、社会科学におけるモデルを理解する。
 - 1) 確率と効用
 - 2) 合理的選択理論
 - 3) 行動の伝播
 - 4) 社会的ネットワーク
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Models give us insight about behaviors and tendencies of humanity and society.
In this course, students learn the models in social science below:
 - 1) Probability and Utility
 - 2) Rational Choice
 - 3) Influence of Behavior
 - 4) Social Network
5. 学修の到達目標：1) 社会科学におけるモデルを他人に説明できるようになる。
2) 社会科学におけるモデルを簡単な数学を用いて表現できるようになる。
3) 社会科学におけるモデルを、自分で見つけた社会現象に応用して分析できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By participating in the course, students will be able to:
 - 1) explain the models to others
 - 2) express the models with basic mathematics
 - 3) analyze the social phenomena with the models
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態：オンライン
 1. イントロダクション
 2. 非合理的なくじのひき方：確率と効用
 3. 人の意思決定：リスクとプロスペクト理論
 4. なぜバイトは暴走するのか：エージェンシー問題
 5. 社員がきちんと働くには：インセンティブ契約とモニタリング
 6. カルトや陰謀論が信者の生活様式を変えるのはなぜか：宗教とカルト
 7. 教育格差はなぜ縮まらないのか：Breen-Goldthorpe モデル
 8. 隣の芝はなぜ青いのか：相対的はく奪
 9. 流行が生じるメカニズム：閾値モデルとロジスティック曲線
 10. 流行はなぜ収まるのか：SIR モデル
 11. 格差の行きつく先はどこへ：マルコフ連鎖
 12. 感染する肥満？：社会的ネットワークとその威力
 13. 誰がネットワークの中心か：ネットワーク分析と行列
 14. ボーリングと政治腐敗：社会関係資本
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%]・(○) レポート [70%]・(○) 小課題 [30%]
9. 教科書および参考書：
なし。適宜資料を配布する。
10. 授業時間外学習：入念な予習，復習を行うこと。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
随時メール(kkezuka@ila.titech.ac.jp)にて連絡すること。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：集中(4) 単位数：2

担当教員：毛塚 和宏

コード：LB98803, 科目ナンバリング：LHM-OS0201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ゲーム理論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Game Theory

3. 授業の目的と概要：ゲーム理論は人の行動や社会現象を理解するために役立つツールである。この講義では、実際の事例と結び付けながら、ゲーム理論を学ぶ。この授業では以下の内容を学ぶ。

- 1) ゲーム理論を用いて社会現象を表現する
- 2) 展開形ゲーム
- 3) 標準形ゲーム
- 4) 無限繰り返しゲーム
- 5) 不完備情報ゲーム
- 6) 進化ゲーム理論

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Game theory is a useful tool to analyze and understand behaviors and social phenomena. In this course, students learn game theory with actual cases.

The following topics will be covered in the course:

- 1) Explanation of social phenomena by game theory
- 2) Games for strategic form
- 3) Games for extensive form
- 4) Repeated games
- 5) Games with incomplete information
- 6) Evolutionary game theory

5. 学修の到達目標：1) ゲーム理論によるモデルのメカニズムを他人に説明できるようになる。

2) ゲーム理論によるモデルを簡単な数学を用いて表現できるようになる。

3) ゲーム理論を、自分で見つけた社会現象に応用して分析できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By participating in the course, students will be able to:

- 1) explain the models with game theory to others
- 2) express the models with basic mathematics
- 3) analyze the social phenomena, applying the game theory

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン

1. インTRODクシヨン
2. 保険料から人種まで：統計的差別と合理的選択理論の復習
3. Film for Two：標準形ゲーム
4. 見知らぬ他人と協力できるか：囚人のジレンマ
5. 通話料金の価格の決まり方：寡占
6. 結婚相手は家事する人ぞ？：展開形ゲーム
7. 協調する関係が起りやすい環境：繰り返しゲーム
8. リーマンショックの裏で：モラルハザード
9. 家事をする夫と結婚するには：不完備情報ゲーム
10. 中古車市場は存在しない？：逆選択
11. 現代的な「踏み絵」：スクリーニング
12. なぜ学歴によって給料が異なるのか：シグナリングゲーム
13. 自分の希望価格を書かせる方法：オークション
14. エスカレーターに生じる規範：進化ゲーム理論
15. 授業のふりかえり

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) レポート [70%]・(○) 小課題 [30%]

9. 教科書および参考書：

参考書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008年

10. 授業時間外学習：入念な予習、復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

随時メール(kkezuka@ila.titech.ac.jp)にて連絡すること.

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：佐崎 愛

コード：LB35402, 科目ナンバリング：LHM-OS0202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：行動科学の基礎リテラシーと質的調査
2. Course Title (授業題目)：Basic behavioural science literacy and qualitative research
3. 授業の目的と概要：行動科学の研究に必要なリテラシーを身につける。このリテラシーとは、スライド作成、文献探索、論文等文章の作成技術を指す。また、社会科学の中で行動科学と連携が期待される質的調査の技法についても取り扱う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Develop the literacy required for research in the behavioural sciences. This literacy refers to the techniques of slide making, literature searching and writing articles and other texts. It also deals with qualitative research techniques that are expected to be linked to the behavioural sciences within the social sciences.
5. 学修の到達目標：(1) 論文やプレゼン、レポート作成に必要な技術を身につける。
(2) 行動科学において連携が期待される質的調査の基礎的な技術を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Acquire the skills necessary for writing papers, presentations and reports.
(2) Acquire basic skills in qualitative research, which is expected to be linked in the behavioural sciences.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業では、前半に図書館での情報探索、および質的調査の特徴とその手法について学ぶ。後半では行動科学のリテラシーについて学び、最後に各自簡単な問いを立てて同クラス内でインタビュー調査 or アンケート調査を行い、その内容をスライドにまとめ、15 回目に発表する。

授業は対面授業を予定している。特に、第 2-4 回目の授業は図書館での対面の学習を予定している。
資料は授業時、および classroom でも配布する（テキスト等の購入は必要なし）。

1. オリエンテーション
 2. 図書館における情報探索(1) 図書館の機能
 3. 図書館における情報探索(2) 様々な資料に触れる
 4. 図書館における情報探索(3) 先行研究をさがす
 5. 質的調査の特徴と種類
 6. フィールドワークの基本(1) 問い・対象の選定・方法
 7. フィールドワークの基本(2) フィールドノートと分析
 8. 半構造化インタビューの基本
 9. アンケート調査の基本
 10. 研究テーマの選び方と文献リストの書き方
 11. 先行研究のレビュー、論文の構造と書き方
 12. スライドの作り方とプレゼンの方法
 13. スライド実習(1) 問いの設定、先行研究レビュー
 14. スライド実習(2) 質問紙調査 or インタビュー調査、まとめ
 15. 発表会
8. 成績評価方法：
毎回の出席とコメント（40%）、15 回目に行うプレゼンテーション（60%）
9. 教科書および参考書：
参考書
・日本社会学会編集委員会編, 2019, 『社会学評論スタイルガイド』（第三版）, 日本社会学会
(日本社会学会 HP (<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>) より全文ダウンロードが可能。)
10. 授業時間外学習：授業後の復習、および 15 回目のプレゼンテーションに向けたスライド作成と発表練習。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
何か質問がある際には ai. sazaki. b3@tohoku. ac. jp まで適宜連絡すること。
また基本は対面授業を予定しているが、やむを得ない事情がある場合は教員に事前に相談することで、オンラインでの授業参加を認める。

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB45402, 科目ナンバリング：LHM-OS0202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：行動科学のための数理モデル入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Mathematical Models in Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：行動科学において重要なツールである数理モデルについて初歩から学ぶ。

この授業で主にあつかうトピックは行動経済学，合理的選択理論，数理社会学，確率モデル，推測統計である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to study mathematical models that are important analytical tools in behavioral science.

5. 学修の到達目標：(1) 数理モデルとは何かを正しく理解できる。

(2) 数理モデルの基礎となる数学を正しく理解できる。

(3) 数理モデルを用いて社会現象や人間行動を分析する力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will clearly understand what mathematical models are.

(2) Students will clearly understand mathematics that is the foundation of mathematical models.

(3) Students will acquire the skill of analyzing social phenomena and human behavior by mathematical models.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は Classroom を使用して課題等を配布します。

浜田 (2018) をテキストとして、様々な数理モデルの手法とその考え方を解説する。単にテキストを講読するだけでなく、数理モデルを用いて参加者が自分で社会現象や人間行動を分析できるようになることを重視する。

1. モデルとは何か (序)
2. 隠された事実を知る方法 (第 1 章)
3. 卒業までに彼氏ができる確率 (第 2 章)
4. 内定をもらう方法 (第 3 章)
5. 先延ばしをしない方法 (第 4 章)
6. 理想の部屋を探す方法 (第 5 章)
7. アルバイトの配属方法 (第 6 章)
8. 売り上げをのばす方法 (第 7 章)
9. その差は偶然でないと言えるのか? (第 8 章)
10. ネットレビューは信頼できるのか? (第 9 章)
11. なぜ 0 円が好きなのか? (第 10 章)
12. 取引相手の真意を知る方法 (第 11 章)
13. お金持ちになる方法 (第 12 章)
14. 数理モデルで社会を分析しよう (1) (担当者・履修者による報告 1)
15. 数理モデルで社会を分析しよう (2) (担当者・履修者による報告 2)

8. 成績評価方法：

出席 (70%)，授業内での課題 (30%)

9. 教科書および参考書：

教科書：浜田宏，2018，『その問題、数理モデルが解決します：社会を解き明かす数理モデル入門』ベレ出版。

参考書：矢野健太郎・田代嘉宏，1993，『社会科学のための基礎数学 改訂版』裳華房。

10. 授業時間外学習：演習中の議論に積極的に参加できるようにテキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

命題の証明はかならず自分で計算してフォローすること。内容の理解に必要な数学については矢野・田代 (1993) を参照すること。

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時. 後期 水曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB43410, 科目ナンバリング：LHM-OS0203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：多変量解析
2. Course Title (授業題目)：Multivariate Analysis
3. 授業の目的と概要：R を用いた統計実習を通じて、多変量解析の理論とその適用について理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers basic topics on multivariate statistical analysis. Students receive trainings using R.
5. 学修の到達目標：(1) 記述統計量から多変量解析までの統計分析についての知識を身に付け、適切に使用できるようになる。
(2) R を用いて、多変量解析を行うことができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand theories on multivariate statistical analysis
(2) To learn skills needed to use R
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. R の基礎
 3. 変数のタイプと基本統計量
 4. グラフの基本
 5. クロス集計表
 6. 単回帰分析
 7. 重回帰分析
 8. ダミー変数、交互作用項
 9. 回帰分析におけるモデルの診断
 10. 多変量解析と因果関係
 11. 二項ロジスティック回帰分析
 12. 順序ロジスティック回帰分析、多項ロジスティック回帰分析
 13. 多変量解析の結果の報告
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：

毎週の授業前後の課題 (60%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：ほぼ毎回課題が出るので、計画的に取り組むことが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

本授業は、社会調査士カリキュラムの E 科目（「多変量解析の方法に関する科目」）に該当する。

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：5 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB52204, 科目ナンバリング：LHM-OS0301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会階層と不平等の計量分析
2. Course Title (授業題目)：Quantitative Analysis on Social Stratification and Inequality
3. 授業の目的と概要：社会階層と不平等に関わる諸問題について、英語のリーディングを教材として理論と量的データ分析の方法への理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers a variety of topics on social stratification and inequality. Students learn theories and statistical methods of relevant areas through reading and discussion of literature.
5. 学修の到達目標：(1) 文献講読を通じて、社会階層と不平等に関する理論と実証分析への基本的な理解を身につける。
(2) 決められた担当回の発表を通じて、学術的な発表の経験を積む
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the theories and empirical analyses in the field of social stratification and inequality through literature review
(2) To learn academic presentation skills
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 社会階層と不平等の理論 (1)
 3. 社会階層と不平等の理論 (2)
 4. 社会階層と不平等の理論 (3)
 5. 社会階層と不平等の測定 (1)
 6. 社会階層と不平等の測定 (2)
 7. 社会階層と不平等の測定 (3)
 8. 教育
 9. 労働市場
 10. ジェンダーと家族 (1)
 11. ジェンダーと家族 (2)
 12. 人種とエスニシティ
 13. 社会関係資本
 14. 健康
 15. グローバリゼーション
8. 成績評価方法：

文献の担当回における発表および課題提出
9. 教科書および参考書：

Social Stratification: Class, Race, and Gender in Sociological Perspective (4th), edited by David Grusky

必要な範囲についてコピーを用意する。

10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読んで上で授業に出席することが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB51406, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質問の科学

2. Course Title (授業題目) : Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：行動科学的研究においては調査や実験が行われることが多く、ここでは質問紙（調査票）が用いられることも多い。質問紙（調査票）の作成は長い間「アート」に属するものと見なされて来たけれども、近年になって「質問の科学」と呼ばれる、認知科学的視点にもとづく研究も盛んになってきた。この演習では、「質問の科学」の研究成果を報告した日本語論文を読むことで、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を理解する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」などの関連分野の動向にも目配り

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Although questionnaire design in survey and experimental studies has been regarded as an "art," recent studies from the perspective of cognitive science provide foundations of "the science of asking questions" (as well as those of "total survey error approach," "unobtrusive methods," and some other related research projects). In this seminar, students will learn the fruit of these studies through reading papers (in Japanese) on survey response processes.

5. 学修の到達目標：認知科学的な見方を身につけることで、データ収集・測定の諸問題について理解を深めるとともに、それらの問題に対処するためにはどのようにしたらよいかを考えることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this seminar is to help students to understand problems in measurement (or data collection) and to establish their ideas on the ways to cope with the problems.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 授業計画の説明、質問の科学の概観
2. 認知的アプローチによる予備調査
3. 回答選択肢のレイアウト
4. 項目の方向性とグループ化
5. 中間選択と質問内容、回答者属性
6. 中間選択と質問項目数
7. 中間選択とニューメラシー
8. 回答中断行動
9. 複数回答形式と個別強制選択形式
10. 最小限化（満足化）(1)：知見への影響
11. 最小限化（満足化）(2)：そのメカニズムと House Effect
12. 調査回答の質の向上のための方法
13. レスポンス・スタイルの測定モデル
14. センシティブなトピックと使い捨て項目
15. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法

8. 成績評価方法：

期末レポート (Google Classroom で提出) [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]

9. 教科書および参考書：

演習の場で検討する文献は、参加者各自が「電子ジャーナル」(附属図書館、CiNii, J-STAGE 等を経由) や「機関レポジトリ」などからダウンロードする。

参考文献：グローヴズ他 (大隅昇監訳) 『調査法ハンドブック』朝倉書店

10. 授業時間外学習：(1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。

(2) 担当の文献に関する報告の準備をする。

(3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認し、初回の授業に必ず参加すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB61405, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「質問の科学」実験実習

2. Course Title (授業題目)：Exercises in the Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：認知科学的視点に基づいた「質問の科学」に関する理解を、実験実習を通して深める。その理解にもとづいて、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を習得する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」、「テキストマイニング」などの関連分野の動向にも目配りをする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this seminar, students will further their understandings of the "science of asking questions" by engaging in experimental surveys so that they can cope with problems in data collection in behavioral science. Exercises in text mining and randomized response technique are also provided.

5. 学修の到達目標：(1) 測定と尺度構成の基本的な考え方を、実習を通して理解する。

(2) 人々が質問紙に回答する際の認知的メカニズムに関する理解を深める。

(3) 準実験的フィールド調査とウェブ上での実験を通して、質問紙の設計と調査実施の技法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the concept and methods of measurement and scaling.

(2) To understand cognitive mechanisms in survey response processes.

(3) To learn the techniques of questionnaire design through planning and conducting experimental surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 授業計画の説明、グループ編成
2. 分類とコーディング
3. 尺度構成法
4. 評定法・序列法・一対比較法
5. 準実験的調査の企画と実施(1)：調査テーマと調査対象の検討
6. 準実験的調査の企画と実施(2)：質問項目と質問文の検討
7. 準実験的調査の企画と実施(3)：実査の準備と実施
8. 準実験的調査の企画と実施(4)：データの整理と分析
9. 自由記述データのテキストマイニング(1)：2次分析の企画
10. 自由記述データのテキストマイニング(2)：基礎集計
11. 自由記述データのテキストマイニング(3)：多変量解析
12. アイテムカウント法(1)：実験の企画、実験の準備
13. アイテムカウント法(2)：協力者募集と実験実施
14. アイテムカウント法(3)：実験実施とデータの整理
15. アイテムカウント法(4)：データの分析

8. 成績評価方法：

レポート (6回、Google Classroom で提出) [50%]、平常点 (課題への取り組み) [50%]

9. 教科書および参考書：

原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会、2004.

そのほかの文献については、授業で指示する。

10. 授業時間外学習：(1) 教科書・補足資料 (Google Classroom で配付) や参考文献を事前に読み、予習しておく。

(2) 教科書等で指定された作業 (調査・実験・データ分析等を含む、共同作業の場合もある) を行い、その結果をレポートにまとめる。

(3) 教科書等にある「問題」について考え、その結果をレポートにまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認し、初回の授業に必ず参加すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB55201, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：応用多変量解析
2. Course Title (授業題目)：Advanced Multivariate Analysis
3. 授業の目的と概要：多変量解析の応用的なトピックに関して、文献講読と実習を通じて理論と実証分析への適用方法について理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers advanced topics in multivariate statistical analysis. Students are expected to gain understandings on the theories and empirical applications through literature review and the practice of data analysis.
5. 学修の到達目標：(1) 文献講読と実習を通じて、社会階層と不平等に関する理論と実証分析への基本的な理解を身につける。
(2) 期末レポートの執筆を通じて、自ら注目した事例に対して授業で学んだキーワードを適用し、適切な説明をできるようにする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the theories and empirical analyses in the field of social stratification and inequality through literature review and the practice of data analysis
(2) To write a term paper that applies keywords on cases that are chosen by students themselves
7. 授業の内容・方法と進度予定：
事前に指定された文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、解説を適宜行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。

【各回の構成】

1. イントロダクション
 2. 回帰分析 (1)
 3. 回帰分析 (2) + 実習
 4. マルチレベル分析 (1)
 5. マルチレベル分析 (2) + 実習
 6. 構造方程式モデリング (1)
 7. 構造方程式モデリング (2) + 実習
 8. 傾向スコア分析 (1)
 9. 傾向スコア分析 (2) + 実習
 10. パネルデータ分析 (1)
 11. パネルデータ分析 (2) + 実習
 12. イベントヒストリー分析 (1)
 13. イベントヒストリー (2) + 実習
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：
予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：
初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。指定文献に関連した内容について、方法の詳細や適用例について自分で調べることが求められる場合もある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
本科目は専門社会調査士カリキュラムの I 科目（「多変量解析に関する演習（実習）科目」）に該当する。
R による統計分析の経験を事前に有することが望ましい。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB65201， 科目ナンバリング：LHM-OS0302J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：非伝統的データの分析
2. Course Title (授業題目)：Statistical analysis of non-traditional data in social sciences
3. 授業の目的と概要：伝統的な社会調査とは異なるタイプのデータに関して、文献購読と実習を通じて理解を深める。具体的なトピックとしては、テキストデータ、空間データ、ネットワークデータを扱う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn non-traditional types of data analysis in social sciences through literature review and the practice of data analysis. Topics include text data, spatial data, and network data.
5. 学修の到達目標：(1) 文献講読と実習を通じて、各種のデータの構造と扱い方について基本的な理解を身に着ける。
(2) 期末レポートの執筆を通じて、自ら問いを立てて分析できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the structures and the way of handlings various types of data through literature review and the practice of data analysis
(2) To write a term paper with a research question set by students themselves
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. テキストデータ (1)
 3. テキストデータ (2)
 4. テキストデータ (3)
 5. テキストデータ (4)
 6. 空間データ (1)
 7. 空間データ (2)
 8. 空間データ (3)
 9. 空間データ (4)
 10. ネットワークデータ (1)
 11. ネットワークデータ (2)
 12. ネットワークデータ (3)
 13. ネットワークデータ (4)
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。指定文献に関連した内容について、方法の詳細や適用例について自分で調べを求められる場合もある。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB53209, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学のための統計的因果推論

2. Course Title (授業題目)：Causal inference for Social Science

3. 授業の目的と概要：1) 社会現象を統計モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。

2) 現実の社会現象をどうやって統計モデルとして定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。

3) RCT の枠組みにおける平均処置効果と条件付き期待値回帰モデルとの関係を理解する

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Course objectives is to understand basics of statistical model

5. 学修の到達目標：データの分析手法を習得する

現象の数学的表現を習得する

日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Learnig goal is to understand the method to formalize a statistical model.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする。計算が必須なので必ず予習すること。

授業の実施形態：オンライン

1. イントロダクション

2. 基礎的事項，変数の種類と相互の関係，交絡の調整

3. 群間比較と統計的推測

4. 回帰分析，OLS 推定量の分布，共分散分析

5. ロジスティック回帰，条件付き期待値回帰

6. 処置効果，STUVA 条件

7. 共変量と条件付き独立

8. 傾向スコア 線形制約 操作変数法

9. マッチング 線形制約と回帰係数の均一性

10. マッチングによる処置効果の推定

11. 層化解析法，重み付け法 モーメント法

12. 操作変数とノンコンプライアンス

13. 内生性，欠落変数バイアス，TSLLS 推定量

14. 最尤法，漸近理論

15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席 [70%]，授業内の課題 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書：岩崎学，2015，『統計的因果推論』朝倉書店。

参考書：鹿野繁樹，2015，『新しい計量経済学』日本評論社，

末石直也，2015，『計量経済学』日本評論社

久保拓哉，2012，『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店。

10. 授業時間外学習：毎週，指定された予習範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する

指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

確率論，微分積分，線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい。事前に履修していない場合は授業を通して学習することが必要である。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB63210, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ベイズアプローチによる社会科学の理論と実証
2. Course Title (授業題目) : Social Science and Bayesian Statistics
3. 授業の目的と概要：1) 社会現象をどのようにして数理モデルとして表現するのか，そしてデータを使ってそのモデルのフィットをどのように確認するのかを学ぶ.
2) 統計モデルを利用するうえで必要な確率論の基礎を学ぶ. あわせて経験科学的に興味深い問題を構成する力の基礎を涵養する.
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : 1. To learn the method that explain an interesting social phenomenon with mathematical models and statistical analysis
2. To learn how to formalize an interesting social phenomenon through this course. To train the ability that specifies the problem from good samples.
5. 学修の到達目標：Stan を使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1.To learn Bayesian statistical analysis by Stan and R.
2.To learn mathematical formalization and modeling
3.To train the ability that specify and abstract the essence of social phenomenon
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業は Classroom を使用します. クラスコードは rajtwlo です.

1. イントロダクション モデルとはなにか
2. 真の分布, 確率モデル, データ
3. 最尤推定
4. ベイズ推定
5. MCMC
6. 確率分布
7. 汎化誤差, AIC, WAIC, 予測分布
8. Stan による分析: 回帰
9. Stan による分析: モデル式の書き方
10. Stan による分析: 階層モデル
11. Stan による分析: 所得分布分布生成モデル
12. Stan による分析: 観測モデルとの接合
13. Stan による分析: 時間割引モデル
14. Stan による分析: 教育達成の階層間格差
15. まとめと総括
8. 成績評価方法：
出席 [70%], 授業内の課題 [30%]
9. 教科書および参考書：
教科書：浜田宏・石田淳・清水裕士, 2019 『社会科学のためのベイズ統計モデリング』朝倉書店.
参考書：久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店.
松浦健太郎, 2016, 『Stan と R で統計モデリング』共立出版
Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.
その他の参考書は適宜指示する
10. 授業時間外学習：予習に指定した範囲を事前に読んでくること.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
本演習では R と Stan による実装例を紹介するので，実行環境を整えた PC を準備できることが望ましい。
また高校・大学初年度レベルの微積分を復習しておくことが望ましい。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：LYU ZEYU

コード：LB53309, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：計算社会科学のための Python プログラミング入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction of Python Programming for Computational Social Science
3. 授業の目的と概要：この授業では、計算社会科学に必要なプログラミング基礎を、Python を通じて習得する。データ構造、制御構造、関数、オブジェクトなどプログラミングの基礎概念を学んで、ライブラリを用いたデータ解析・可視化などを、講義と実習を通じて身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course pertains to elementary Python programming for computational social science. This course covers fundamentals of programming including data types, control structure, functions, and object oriented design. Also, students will learn how to utilize libraries for data analysis and data visualization through lectures and practical exercises.
5. 学修の到達目標：Python の基本概念と Python によるデータ分析の基本手法を習得することを目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to learn the basic concept of Python and the fundamentals of data analysis techniques utilizing Python.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. Git/Github の使い方、プログラミング環境の構築
 3. 変数の基礎と数値計算
 4. 繰り返しと制御構造
 5. 関数
 6. オブジェクトとクラス(1)
 7. オブジェクトとクラス(2)
 8. pandas 入門
 9. scikit-learn 入門
 10. 可視化
 11. データ分析の実践
 12. データ分析の実践
 13. データ分析の実践
 14. データ分析の実践
 15. データ分析の実践
8. 成績評価方法：

毎回の課題 [70%], 期末課題 [30%]
9. 教科書および参考書：

参考書：
Bill Lubanovic, 「入門 Python 3 第 2 版」, オライリージャパン
Wes McKinney, 「Python によるデータ分析入門 第 2 版 —NumPy, pandas を使ったデータ処理」, オライリージャパン
Aurlien Gron, 「Hands-on Machine Learning With Scikit-learn, Keras, and Tensorflow: Concepts, Tools, and Techniques to Build Intelligen
10. 授業時間外学習：毎回の授業内容の習得を問う課題を完成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
 - (1) 本講義では Python の実習を含むため、PC を準備できることが望ましい。
 - (2) 初回の授業は授業計画・実施方法について説明しますので、初回の授業に必ず参加すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：LYU ZEYU

コード：LB63310, 科目ナンバリング：LHM-OS0302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：計算社会科学と自然言語処理
2. Course Title (授業題目)：Computational Social Science and Natural Language Processing
3. 授業の目的と概要：計算社会科学研究でよく用いられる自然言語処理技術の知識と応用能力を習得する。形態素解析、単語埋め込みなどの概念を学ぶとともに、Word2vec モデルの実装や文書分類など実践的な応用能力を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the knowledge and techniques that widely applied in computational social science research. Students will learn concepts, such as tokenization and word embedding, as well as hands-on application skills such as Word2vec model implementation, and text classification.
5. 学修の到達目標：テキスト分析の一連のプロセスを理解し、Python で実装することを目標とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim is to understand a series of text analysis processes and put them into practice using Python
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. テキストの前処理(1)
 3. テキストの前処理(2)
 4. 深層学習(1)
 5. 深層学習(2)
 6. Word2vec モデル(1)
 7. Word2vec モデル(2)
 8. seq2seq
 9. Attention モデル
 10. Transformers(1)
 11. Transformers(2)
 12. テキスト分析の実践
 13. テキスト分析の実践
 14. テキスト分析の実践
 15. テキスト分析の実践
8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%]
9. 教科書および参考書：

Lewis Tunstall, Leandro von Werra, Thomas Wolf, 「機械学習エンジニアのための Transformers —最先端の自然言語処理ライブラリによるモデル開発」, オライリージャパン
斎藤 康毅, 「ゼロから作る Deep Learning ② —自然言語処理編」, オライリージャパン
Delip Rao, Brian McMahan, 「Deep Learning for NLP with Pytorch」, O'Reilly
10. 授業時間外学習：参考書と配布資料などで予習・復習をする。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
 - (1)前期の計算人文社会科学研究演習 I と併せて参加することが望ましい。あるいは、Python の基本的な使い方についての習熟を求める。
 - (2)本講義では Python の実習を含むため、PC を準備できることが望ましい。

科目名：行動科学実習／ Behavioral Science (Laboratory Work)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時. 前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB53405, 科目ナンバリング：LHM-OS0303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習

2. Course Title (授業題目) : Training in Social Surveys

3. 授業の目的と概要：量的社会調査を実施する上で必要となるさまざまな技法を習得することを目的とする。受講生は社会調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。調査は東北大学の学生を対象に行う。「東北大学生の生活と意識」を共通のテーマとして設けた上で、受講生の関心に応じてグループを分ける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course offers knowledge and skills that are needed to conduct quantitative social surveys. Students experience a set of processes on social surveys, including establishing hypotheses, designing questionnaires, statistical data analysis, and writing a report. The survey will be aimed at students of Tohoku University. The main theme of the survey will be "Life and attitudes of students of Tohoku University."

5. 学修の到達目標：(1) 社会調査を実施するための技法を身につける。

(2) 社会調査の一次分析を通じた論文を執筆する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire skills for conducting social surveys

(2) To write a paper through a primary analysis of a social survey

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 社会調査とは・社会調査の進め方
2. 社会調査のデザイン・調査テーマの設定
3. 先行研究、既存調査の整理
4. 仮説の設定、実査方法・調査対象者の検討
5. 質問項目の検討
6. 調査票の作成
7. 実査
8. エディティング・コーディング
9. 調査結果の入力
10. データのクリーニング
11. データ分析による仮説の検証 (1)
12. データ分析による仮説の検証 (2)
13. 結果の報告・報告書原稿の執筆
14. 報告書原稿の輪読・修正
15. 報告書の作成

8. 成績評価方法：

授業への積極的な参加 (40%)、最終報告書 (60%)

9. 教科書および参考書：

[参考書] 轟亮・杉野勇, 2021, 『入門・社会調査法 第4版』法律文化社.

10. 授業時間外学習：(1) 調査票作成段階：関連する先行研究を読み、仮説を検討する

(2) 実査段階：調査項目の検討、実査への参加

(3) 分析段階：報告書原稿の作成

授業時間外もグループによる作業が必要になることがあるので留意すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

本授業は、社会調査士カリキュラムのG科目（「社会調査を実際に経験し学習する科目」）に該当する。